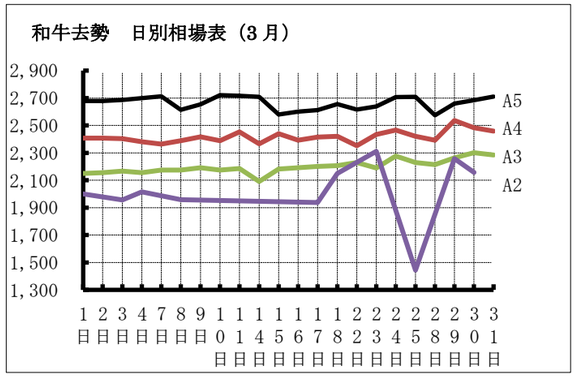
月刊 しばうら

2022年 4月号

牛肉営業部

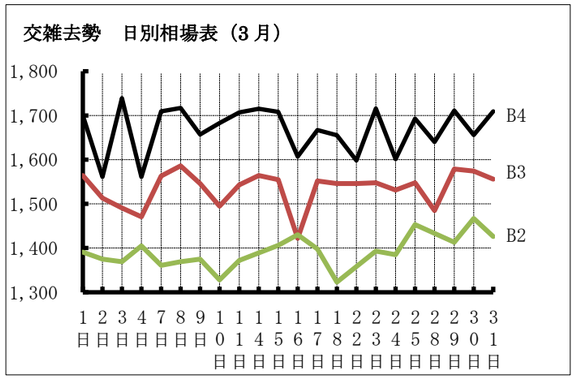
＜3月の市場動向＞

新型コロナウイルスの感染拡大により、発出されていたまん延防止等重点措置は解除が3月21日となり、外食需要回復にはなかなか至らず、和牛については前年対比を大きく割り込んだ。また食品価格や原油価格の高騰が消費意欲にも影を落とし、家庭内需要にも盛り上がりは見られなかったため、交雑についても前年実績を割る結果となった。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,669円	-142円	94.9%	104円	104.1%
A4	2,417円	-185円	92.9%	133円	105.8%
A3	2,199円	-216円	91.1%	141円	106.9%
A2	1,973円	-228円	89.6%	189円	110.6%



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,685円	-49円	97.2%	50円	103.1%
B3	1,546円	-66円	95.9%	102円	107.1%
B2	1,389円	-88円	94.0%	134円	110.7%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	上場なし	－	－	－	－
B2	1,072円	109円	111.3%	110円	111.4%

＜3・4月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、2月の輸入量は前年同月比1.2%増の3万7,779ｔで、うちチルドは8.2%減の1万6,432ｔと減少、フローズンは前年同月比9.8%増の2万1,346t となった。特にチルドは豪州産の大幅な入船遅延や北米でも減便による入船遅延があり、輸入量が減る要因となった。

農畜産業振興機構によると3月は18.8%減の3万7,500t、4月は27.1%減の4万300ｔで予測している。

輸入牛肉通関量		2月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	6,793	6,894	98.5%
	米国	9,225	10,263	89.9%
	その他	1,876	2,028	92.5%
	合計	17,894	19,185	93.3%
フローズン	豪州	8,298	10,138	81.9%
	米国	7,494	8,205	91.3%
	その他	3,645	4,339	84.0%
	合計	19,437	22,682	85.7%

出典：食肉速報　　単位：t

＜4月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による4月の出荷予測頭数は、全体で前年比101.3%の9万1,900頭で、品種別にみると和牛は1.5%増の4万2,800頭、交雑種は9.2%増の2万1,500頭、乳用種は4.2%減の2万6,200頭と予測している。

東京食肉市場の4月のと畜頭数は7,600頭を予定しています。

＜4月の牛枝肉相場見通し＞

3月21日に新型コロナウイルスの感染防止対策が全面解除されたものの、感染者数は依然として高い水準にあり、リバウンドが懸念されていることから、外食需要の回復が遅れることが予想される。また、景気の先行き不安や食品等の値上げもあり、牛肉の需要を取り巻く環境は厳しい状況が継続する見込み。

和牛については冷凍保管事業や輸出需要などによる下支えされた価格での展開が継続してきたが、好調なアメリカ輸出において低関税枠が4月で無くなるため、今後の和牛流通に影響を及ぼす可能性がある。交雑種や乳用種については輸入牛肉の価格が高いこともあり、一定の価格が維持される展開の継続が見込まれる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,450～2,800	B4	1,550～1,650
A4	2,350～2,450	B3	1,350～1,450
A3	2,150～2,250	B2	1,200～1,300
A2	2,000～2,100		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,150		
B2	1,050～1,100		

豚肉営業部

2月の全国と畜頭数は、前年同月比0.3%減の133万2,780頭。また、2月の豚肉通関数量は7万1,885ｔ（前年同月比11.9%増）と前年を上回り前月比では13.0%の減少となった。内訳はチルドが3万5,156ｔ（同11.1%増）、フローズンは3万6,729t（同12.7%増）。

2021-2022年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
2	73,648	64,209	22,875	161,399	73,069	62,941
3	83,976	68,957	24,104	157,880	82,627	72,476
4	80,131	98,642	25,593	159,043	78,537	97,479
5	72,872	71,194	25,852	159,623	72,522	70,614
6	73,971	75,228	25,290	162,439	74,393	72,412
7	71,419	74,607	23,926	160,643	72,678	76,403
8	71,268	78,140	22,888	165,573	72,189	73,210
9	75,182	74,211	21,928	165,491	76,016	74,293
10	76,972	77,876	21,359	161,448	77,317	81,919
11	82,305	78,461	21,604	154,751	81,908	85,158
12	82,143	74,466	22,912	145,676	80,677	83,541
1	79,561	82,518	23,226	154,046	79,136	74,148
2	73,703	71,813	23,161	156,035	73,664	69,824
比	100%	112%	101%	97%	101%	111%

出典：農畜産業振興機構　比：最終月の前年同期比　　単位：t

2月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	17,063	115.2%	デンマーク	5,877	122.3%
カナダ	15,541	99.8%	スペイン	10,667	163.8%
メキシコ	2,550	199.8%	メキシコ	6,877	89.9%
			アメリカ	2,136	64.9%
			カナダ	2,107	84.7%
合計	35,156	111.1%		36,729	112.7%

単位：t

＜3月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	65,600	526	516	792
2日	62,300	545	518	622
3日	67,700	523	497	730
4日	63,300	521	501	887
7日	66,600	525	494	636
8日	66,000	527	508	925
9日	60,800	523	496	752
平均	64,614/日			763/日

月初めの手当により相場は底堅い展開となった。3月に入り、徐々に気温が上がって鍋物需要も落ち着いてきたことにより、荷動きはロイン系にシフトした。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10日	67,400	529	492	595
11日	64,500	523	486	979
14日	66,200	516	485	833
15日	65,800	516	498	1,013
16日	62,200	520	487	668
17日	66,600	504	473	710
18日	64,200	520	474	1,001
平均	65,271/日			828/日

首都圏ではまん延等防止措置が延長となり、引き続き内食中心に引き合いがみられたことにより、相場は500円台の底堅い展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	72,500	504	460	817
23日	71,700	491	434	1,055
24日	69,400	492	430	720
25日	69,100	458	369	1,023
28日	68,300	445	395	785
29日	63,400	465	442	951
30日	63,900	506	448	538
31日	61,900	507	463	454
平均	67,525/日			793/日

連休明けは補充買いによる相場への影響は少なかったため、荷動きは全体的に鈍く、上中格差が開き中物価格は300円台となる厳しい展開となった。輸入物は通関の遅れにより、チルドポークが賞味期限の関係で投げ売りされるケースがみられた。

＜4月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による4月の肉豚出荷予測では138万6,000頭（前年比95.7%）と予測している。

当市場の4月集荷予定頭数は1万6,500頭、1日あたりでは約825頭を見込んでいます。

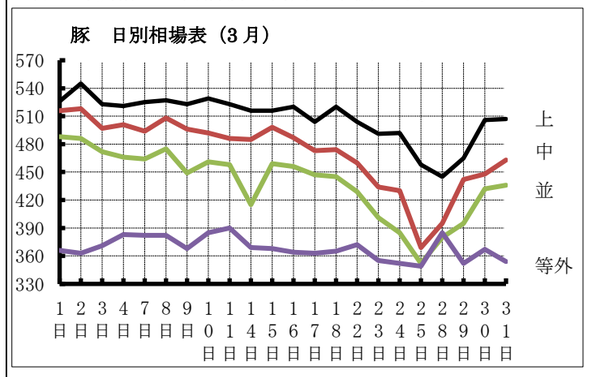
農畜産業振興機構によると4月分の豚肉輸入見込数量は、総量で8万8,400t（同89.6%）、内訳は冷蔵輸入量が3万5,500t（同87.5%）、冷凍輸入量は5万2,900t（同91.1%）と予測。

冷蔵品輸入量は、前年の輸入量が巣ごもり需要の影響等から多かったことに加え、北米の国内需要の増加による現地価格の高騰等から、前年同月をかなり大きく下回ると予測する。また、3ヵ月平均は前年同期をやや下回ると予測する。

冷凍品輸入量は北米の国内需要の増加による現地価格の高騰等から、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。一方で3ヵ月平均では、前年同期をかなりの程度上回ると予測する。

4月は例年、春の行楽・入学式、学校給食の再開によって需要増加が見込まれるが、今年は新型コロナウイルス感染再拡大への警戒がある中で、需要の盛り上がりは不透明感が強い。供給面では、前年の全国出荷頭数が多かったこともあり4%程度減少する見込みで、4月の予想頭数が140万頭を割るのは4年振りとなる。今後、出荷頭数の減少がゴールデンウイーク前の手当と重なった場合には、相場に影響を及ぼす可能性もある。

以上のことから当市場の上物平均価格は500円前後、中物平均価格470円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2－7－19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127